



TITLE:

# HRP法によるサル歯髄神経支配ニューロンの局在に関する実験的研究(Ⅲ 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

窪田, 金次郎; 長江, 一樹; 高田, 和朋

---

CITATION:

窪田, 金次郎 ...[et al]. HRP法によるサル歯髄神経支配ニューロンの局在に関する実験的研究(Ⅲ 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 1981, 10: 56-56

ISSUE DATE:

1981-01-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162906>

RIGHT:

効果を調べたところ、サルとブタの脳チューブリンのカルモジュリン感受性はほぼ同一であった。

チューブリン分子は哺乳動物界では極度に保存され種によって変化の極めて少ない蛋白であることが分った。従って、神経興奮に関与することが最近明らかにされている微小管機能の種による特異性は、微小管と相互作用しうる他の蛋白種に求められるべきである。

#### タンザニア国マハレ山塊カソゲ地区のチンパンジーの社会学的生態学的研究：資料のとりまとめ

上原 重男（東大・理）

1976年12月－1978年11月の24カ月間におよぶ、タンザニア国マハレ山塊西麓カソゲ地区滞在中に得られた、野生チンパンジーに関する調査資料のとりまとめをおこなった。調査のおもな対象は約25頭のK集団である。

生態学的資料の中でとくに重点をおいたテーマは、チンパンジーの昆虫食である。その結果の一部は、第33回日本人類学会・日本民族学会連合大会で「マハレ山塊のチンパンジーの昆虫食行動」として、また第9回ホミニゼーション研究会で、「チンパンジーの食性：カソゲとゴンベの比較」と題して、それぞれ口演発表した。

一方、社会学的資料については、とくに Baby-sitter behaviour とチンパンジーの社会構造に考察を加えた。前者は第24回プリマーテス研究会で「チンパンジーで観察された未經産メスによるアカンボウの Temporary adoption」として、後者は第17回日本アフリカ学会において、西田利貞氏と連名で、「チンパンジーの社会構造の再検討」と題して発表した。

現在、これらの成果について、論文化の作業を進めている。

#### HRP法によるサル歯髄神経支配ニューロンの局在に関する実験的研究

窪田金次郎・長江一樹  
高田和朋（医歯大・顎研）

昭和54年度の豊長類研究所の共同利用研究費の援助によって、幼若なニホンザルとヤクザルを用

いて、1側の上顎乳歯歯髄の支配ニューロンの局在をHRP法で分析し、あわせて、歯髄神経線維を電子顕微鏡で分析した。その結果は以下のようである。

1. HRP注入実験では、注入側の三叉神経節で多数（ニホンザルでは445個、ヤクザルでは496個）のHRP陽性細胞が認められた。その細胞のサイズは長径が $25\mu m$ から $50\mu m$ で、短径は $25\mu m$ から $35\mu m$ が大部分であった。我々がさきに行ったニホンザルでの1側の上顎乳歯歯髄へのHRP注入例では、これ程多くの陽性細胞は認められなかったので、これが乳歯髄と永久歯髄とによる相違なのか、55年度の共同利用研究費の援助で確める予定である。

2. ニホンザルの歯髄神経線維の構成がもしツパイのように無髄線維が少ないとすれば、さきに行ったサル歯髄へのHRP注入例では、どうして頸部交感神経節に多数の陽性細胞が認められるのか、そのメカニズムは説明しにくい。そこで、幼若なサルの乳歯歯髄の横断電顕写真上で、神経線維の面積をプランイメーターで測定し、直径を概算したところ、例えば乳切歯歯髄の例では、有髄線維（122本）の73%は $1\sim 4\mu m$ のA $\delta$ 線維で、その間に混って45本の無髄線維（37%）が存在した。無髄線維の大部分は $1\sim 3.5\mu m$ のもので、線維間にかなりの軸掌物合がみられた。乳歯歯髄では50%もの無髄線維がみられた。2～3のヒトを含む哺乳類の歯髄への無髄線維は少ないと報告されているが、サルの乳歯歯髄にはかなりの数の無髄線維（その役割は不明）が分布している。この点についてもサルの永久歯歯髄で検索する予定である。

#### 各種真猿類、原猿類の干渉フィルター使用による眼底脈管造影像の比較研究

福井正信（筑波大）  
古川敏紀（筑波大）  
後藤俊二（京大・霊長研）

哺乳動物眼底記録・撮影の過程で、新技術の開発が活発に行なわれているが、眼底脈管造影記録時の励起・透過フィルターの質の向上のための種々の試みの例も多い。ここで、いわゆる干渉フィルターの起用も行なわれたが、本フィルターは、